

宇部工業高等専門学校	開講年度	平成29年度(2017年度)	授業科目	原価計算論Ⅱ
科目基礎情報				
科目番号	0020	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	経営情報学科	対象学年	3	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	原価計算 岩崎勇			
担当教員	田川 晋也			

到達目標

1. 原価計算の目的について説明できる。
2. 原価の計算を行うのに必要な理論を説明できる。
3. 原価計算の計算問題ができる。

ループリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目1	原価計算の目的について説明できる。	原価計算の目的について概ね説明できる。	原価計算の目的について大抵説明できる。	原価計算の目的についてほぼ説明できない。
評価項目2	原価の計算を行うのに必要な理論を説明できる。	原価の計算を行うのに必要な理論を概ね説明できる。	原価の計算を行うのに必要な理論を大抵説明できる。	原価の計算を行うのに必要な理論をほぼ説明できない。
評価項目3	原価計算の計算問題をができる。	原価計算の計算問題をが大概程度できる。	原価計算の計算問題をが大抵できる。	原価計算の計算問題がほぼできない。

学科の到達目標項目との関係

教育目標 (C) ②

教育方法等

概要	2学期に開講。この講義では、製造業で用いられる簿記である工業簿記と製品原価の計算方法について学ぶ。また、原価計算で算定された原価情報を会社経営の意思決定に利用する方法についても学ぶ。原価計算論Ⅱでは、主に原価情報の利用の仕方について学ぶ。
授業の進め方・方法	専門科目に入ると、初めて聞く内容が増えてきて理解するのも大変になります。この講座では、教科書に出てくる難解な内容をできるだけかみくだいて説明したり、身の回りの具体的なものに例えて説明することを心がけて授業を行う予定です。進む進度もすこしゆっくりめに設定しています。
注意点	1・2年生の頃に学習した商業簿記について復習しておくこと。授業の時は、必ず電卓を持参すること。関数電卓ではなく、簿記用の電卓を準備すること。授業中は、寝ない。しゃべらない。メリハリが必要です。

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1週	本社工場会計 製造業の決算	本社工場間の仕訳を説明できる。
	2週	製造業の決算	製造原価報告書について説明できる。 会計期末における原価差異の処理を説明できる。
	3週	標準原価計算①	標準原価計算の手続きの流れを説明できる。 標準原価の計算を理解できる。
	4週	標準原価計算②	原価標準の設定の方法を理解できる。 原価差異の計算し、分析することができる。
	5週	標準原価計算③	価格差異と数量差異の分析ができる。
	6週	標準原価計算④	作業時間差異と賃率差異の分析ができる。 予算差異、能率差異、操業度差異の分析ができる。
	7週	直接原価計算①	利益計画と直接原価計算の意味を理解できる。 直接原価計算の手続きを理解できる。
	8週	直接原価計算②	固定費調整が説明できる。 損益分岐点分析を理解できる。
2ndQ	9週	直接原価計算③	固変分解を説明できる。
	10週	製造間接計算の工夫	ABCの計算方法を説明できる。
	11週	製造間接費の管理の工夫	ABMによる管理方法について説明できる。
	12週	原価計算の総復習①	難易度が高い計算問題ができる。
	13週	原価計算の総復習②	難易度が高い計算問題ができる。
	14週	原価計算の総復習③	難易度が高い計算問題ができる。
	15週	定期試験	
	16週	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	試験問題の解説を通じて、間違った箇所を理解できる。 全体の学習事項のまとめが理解できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
知識の基本的な理解	70	0	0	0	0	30	100
思考・推論・創造への適用力	0	0	0	0	0	0	0

汎用的技能	0	0	0	0	0	0	0
態度・志向性(人間力)	0	0	0	0	0	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0	0	0	0